

高岡の図書館

第100号

2015. 8. 1

編集・発行 高岡市立中央図書館（〒933-0023 富山県高岡市末広町1-7） TEL 0766 (20) 1818 FAX 0766 (20) 1819

子どもの読書について

高岡市教育委員会 教育長 氷 見 哲 正

平成3年創刊の『高岡の図書館』は号を重ね、このたび記念すべき100号を発行する運びとなった。これを契機として、高岡の図書館が新しい時代のニーズに応え、一層市民に親しまれる場となるよう関係者が一丸となって取り組んでいかねばならないと考えている。

さて、インターネットの普及やコミュニケーションツールの進化などにより日本人の活字離れが指摘されるようになって久しいが、子どもたちの読書についてはどうであろうか。小学6年生と中学3年生を対象とした「全国学力・学習状況調査」では、子どもたちが1日何時間ほど読書をするか、読書が好きであるかなどについても調べている。

その調査報告書によると、1日30分以上読書をする小学生は38.4%、中学生は31.7%、また、「どちらかといえば好き」を含め読書が好きである小学生が73.1%、中学生は69.5%となっている。さらに、読書する時間や読書の好き嫌いと学力との相関についても数値で示しており、国語、算数・数学いずれにおいても読書が好きでよく本を読んでいる子どもの方が学力は高いという結果になっている。

子どもたちを読書好きにするには、幼いころから家庭で読み聞かせをしたり、学校の授業などを通して本に接する機会を多く持つたりすることなどが大切であることは言うまでもない。アメリカの小学生は日本の子どもと比べて多くの読書量をこなしているというデータがあり、そうした事情に詳しい知人に聞いてみたところ、アメリカでは小学校教師の力

量が読書指導によって評価されるくらいで、子どもたちはよく本を読んでいるとのことであった。

アメリカの読書教育では、まず本を読む、重要なことを選んで書く、視覚的に分かりやすく整理する、展示の工夫をする、みんなの前で発表するというプロセスを重視している。一人一人違う本を扱っているが、思考を整理しながらまとめることで、その本の中で起こったことを大きな視点で理解することもできる。これは客観的な視点で書く論文形成の基礎である。また社会に出てからのプレゼンテーション能力を育てることに役立つ。アメリカの教育では、自分の考えを相手に伝える力や議論を通して自分の意見をしっかり主張できる力の育成が重視されているということである。

日本人として生まれ現在はアメリカで子育て中のその知人は、「確かにアメリカの小学校では読書教育に力を入れているが、総合的には日本の教育の方がすぐれていると思う。アメリカでは自由と自主性を重んじるあまり、特にハイスクール段階では学習の場が無秩序な空間となったりする傾向にある。その点、日本では子どもたちが学習意欲をもって取り組めるよう、小・中・高校の各段階で様々な工夫がなされている。」と語っていた。

話は教育の日米比較にまで飛躍してしまったが、将来を担う子どもたちが本を読むことを通して、豊かな感性と創造性を備えた人間として大きく成長してくれることを願うばかりである。

祝「高岡の図書館」 100号発行

元高岡市立中央図書館長 太田 久 夫

高岡市内の図書館（中央・伏木・戸出・中田・福岡）共通の館報である「高岡の図書館」の100号発行、おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

平成3年度の図書館の予算は、通常のほかに佐藤孝志市長（当時）のご配慮によって、「ふるさと高岡コーナー設置事業費」として、若干追加して付けられました。

図書館では、カウンターの横に書架を設置し、高岡関係の図書や高岡ゆかりの人々の図書を、自由に手にとって見られるようにしました。利用者から大変喜ばれました。「高岡の図書館」もこの事業の一環として発行することにしました。この頃の中央図書館は老朽化・狭隘化で、移転する構想が持ち上がりました。日常業務のほかに館報を発行することになったのですが、職員は意欲に燃えており、館内で編集し、市役所で印刷してくるという方法をとっていました。2年後、印刷会社に発注するようになったのですが、総務係の職員には随分迷惑をお掛けしました。私は退職後、嘱託として平成17年3月まで勤め、75号の発行まで原稿の段階で目を通していました。なお、「高岡の図書館」の題字は、中央図書館所蔵の「高岡御車山等由緒」の文書から文字を見つけ出して作成しました。

内容ですが、巻頭言の50号にも書いておいたのですが、市長や教育長、他館の図書館長・恩師・友人・知人らに寄稿していただきました。

50号には、1号から50号までの内容一覧が載っていますので御覧いただきたいと思います。76号以降も、各界の知名士に寄稿していただければお分かりのことと思います。

図書館の仕事シリーズとして、「分類のはなし」を連載したこともあります。最近の図書館は、どこにどのような本があるか図解してあるところが多いのですが、平成3年頃の市内の図書館は、図解しているところはほとんど無かったので、本はどのように並べてあるかを、順序を追っ

て連載しました。「ふるさと情報コーナー」は、一年間に高岡について説いた資料にどのようなものがあるか一覧にしたものです。これは今も続いており、高岡を研究する一助になっていると思います。また、市の刊行物一覧を載せています。市では一年間にたくさんの資料を発行していることが分り、これも高岡を研究するのに指針を与えてくれるでしょう。今も続いています。

「歴史さんぽ」は、飛行機の飛来・宝くじの発行・タクシーの登場など、高岡の歴史をひもとく読み物で、断続的ですが、今も続いています。

「ミニ人物史」は、高岡ゆかりの人物伝です。富山市生まれの人が含まれていますが、高岡で新聞記者をしていたことがあるので、掲載しました。もうすぐ100人に達するので、ぜひ小冊子にしていきたいと思います。実現するときには、それぞれの人物にどのような資料があるか付記していただきたいと思います。歴史都市高岡を築いてきた先人たちの足跡を認識するためにもお願いします。

連載物といえば、平成21年は、高岡開町400年ということで、晒谷和子さんが「前田家三代と高岡」を21回にわたって寄稿されました。



69号（平成15年）
「前田家三代と高岡」

前田利家・利長・利常をはじめ、御車山など年中行事なども交えて高岡の歴史を説かれた内容でした。

晒谷さんは当時図書館に在籍していましたが、転任後も寄稿され、本紙の一番の読み物であったと思います。小冊子にしても良いくらいの分量がありました。後には「町名について」も寄稿されました。400 年がらみでは、蒲田幸雄さんが「400 年の町歩き」を、仁々竹亮介さんが「開町 400 年を振り返って」を寄稿して下さいました。また、北日本新聞社の織田浩之記者は開町 400 年記念「中央図書館所蔵の古文書を活用して」を寄稿して下さいました。歴史を振り返るのに、図書館資料を利用した実例について説いていただきました。図書館を利用する指針を示されたといえましょう。

古城公園は、今年の 3 月国の史跡に指定されました。中央図書館所蔵の「高岡御城景台之絵図」は、非常に貴重な資料で、城郭研究家の高岡徹さんに解説していただきました。高岡城研究に大いに役立つことと思います。ほかにも学識経験者や郷土史家にも寄稿していただきました。100 号までの内容一覧を見て頂ければ分るので、ご尊名だけを記しましょう。定塚武敏・立野幸雄・遠藤幸一・坂本信幸・古岡英明・明神博幸・志甫和彦らの諸氏です。

「調査相談の窓口」は、図書館に寄せられる質問に対する回答です。実にいろいろな質問が寄せられることに驚かれたことと思います。こういう例は図書館だけではありません。私が市役所で公文書の整理の仕事に従事していたとき、県外からの問い合わせがありました。助言を求められたので、8 階の市政資料室の資料で解決しました。その後もときどき質問を受けることがあります。それは未だに図書館の調査相談の仕事が十分に知られていないからではないでしょうか。

この原稿を草するに当たってバックナンバーを調べなおしました。どの質問にも丁寧に回答してあったのですが、もう少し手を加えればよかったなと思うものもありました。3 階の窓口では圧倒的に郷土関係の質問が多いと思います。例えば高岡市の地図については一覧表を作成しておられます。本紙に載せることによって担当者の意欲も湧くし、利用者も便宜を受けるので



73 号(平成 16 年) 新館移転記念号

はないでしょう。

ときどき高岡以外の博物館めぐりをすると、高岡の図書館から貸し出した資料が展示してあることがあります。この資料は富山県全体からみても貴重なものと思います。市内の図書館にはそれぞれ貴重な資料を所蔵しているので、先に記した「歴史さんぽ」のように断続的でもよいですから紹介する紙面を割いていただければよいとも思います。中央図書館の尊経閣文庫の複製本や和書の貴重なもの、徳富蘇峰の原稿もあります。是非検討していただきたいものです。

また、古書古文献シリーズや「高岡市史料集」など、印刷物の紹介もあってもよいと思います。

「読んで候」には、銭屋五兵衛の子孫が定塚小学校を卒業したことが記してありました。また、かつては国泰寺の末寺であった岐阜県本覚寺の屏風の文字を解説したのもあったと思います。

いくつか提案しましたが、一つでも実現していただければ、図書館は単に本の貸し出し返却だけでなく、多彩な活動をしていることと、貴重な資料を所蔵していることが、市内外を問わず多くの利用者に知ってもらえることと思います。読み応えがあるという利用者に応えることにもなると思います。

図書館員には、図書館の型にはまらず、所蔵する宝を活用していただきたいものです。

また、お互いに知恵を出し合って、よりよい館報づくりに努めていただきたいと思います。

移転開館しました

高岡市立伏木図書館



高岡市伏木コミュニティセンター



受付カウンター

平成27年5月7日に、高岡市立伏木図書館が、新築された高岡市伏木コミュニティセンターの1階で移転開館しました。

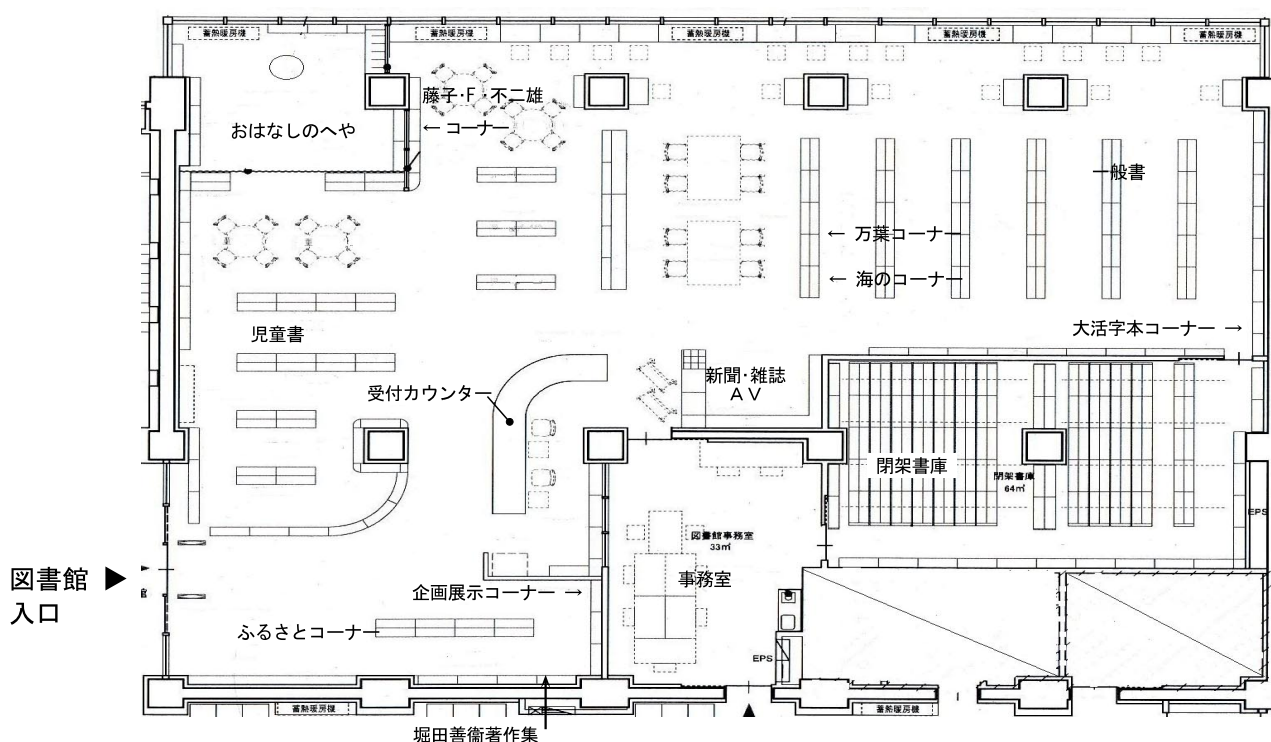
歴史ある伏木地区の図書館として、伏木らしさを感じ、子どもと高齢の方に優しい図書館となることを願い、各コーナーを設置しました。

伏木らしさを感じる図書館

企画展示コーナー・堀田善衛著作集・海のコーナー・万葉コーナーを設置。



ふるさとコーナー



伏木図書館 館内案内図

延床面積：435.2㎡



おはなしのへや



児童書架

子どもと高齢の方にやさしい図書館

おはなしの部屋・藤子・F・不二雄コーナー・大活字本コーナー・児童用を中心としたAVコーナーを設置。

図書館は、子どもから高齢の方まで世代を選ばず、すべての方が利用できる施設です。

コミュニティの図書館に、気軽にお立ち寄りください。



一般書架



閲覧席



■ 図書館へのアクセス

高岡市立伏木図書館

〒933-0104 高岡市伏木湊町 13 番 1 号
(高岡市伏木コミュニティセンター 1 階)

TEL/FAX 0766-44-0073

開館時間 9:00~18:00 (平日・土曜日)

9:00~17:00 (日曜日)

休館日 月曜日 (第 3 日曜日の翌日を除く)、
第 3 日曜日、祝日、年末年始ほか

(横 効子 記)

ふるさと情報コーナー

高岡関係資料情報

平成 25 年に発行された図書や雑誌・新聞に掲載された高岡関係資料のうち、図書館で把握できた文献の一部を紹介いたします。(配列はおおむね富山県郷土資料分類表に準じ、論題名・執筆者(敬称略)・資料名・巻号数・出版年月の順に記載しました。)

- 郷土の文化 平成 25 年(第 38 輯) (富山県立図書館・富山県郷土史会共編 富山県郷土史会刊 25 年 3 月)
武内七郎の越中水害記録 (武内淑子 富山史壇 169.170 合併号 25 年 3 月)
高岡市公文録 第 7. 8. 9 号 別冊 1.2 号 高岡市歴史的文書調査報告書
(高岡市歴史的文書を守り伝える会編刊 25 年 1 月、3 月)
語り伝え・古府の歴史説明スライド集 写真で綴るふる里八つの物語
(太田一男編 古府の歴史を調べる会編 高岡市立古府公民館刊 25 年 2 月)
高岡市史料集 第 24 集 (高岡市立中央図書館古文書を学ぶ会編 高岡市立中央図書館刊 25 年 3 月)
高岡城跡詳細調査報告書 富山県高岡市 (高岡市教育委員会編刊 25 年 3 月)
石塚靖保遺跡調査報告 県道高岡環状線建設工事にともなう発掘調査 高岡市埋蔵文化財調査報告 第 25 冊
(高岡市教育委員会文化財課編刊 25 年 3 月)
市内遺跡調査概報XXII 平成23年度 高岡市埋蔵文化財調査概報 平成23年度個人住宅の建設にともなう調査他
(高岡市教育委員会編刊 25 年 3 月)
下黒田遺跡・下佐野遺跡・諏訪遺跡・蔵野町東遺跡・蔵野町遺跡・駒方南遺跡発掘調査報告 第一分冊・第二分冊(富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告) 北陸新幹線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告VIII
(富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所編刊 25 年 3 月)
伝承を尋ねて 第 49 回 極楽寺の小祭たちから見える、近世以前—高岡市博労町・坂下町—
(樽谷雅好 VITA 92 号 25 年 3 月)
同第 51 回「城端線でめぐる郷土史(I)【高岡市】」 (樽谷雅好 VITA 94 号 25 年 9 月)
町名は歴史をひもとくパスワード (晒谷和子 北陸の民俗 第 30 集 25 年 3 月)
ふるさと三つの谷の物語「古府の歴史を調べる会」活動記録
(太田一男編集代表 高岡市立古府公民館刊 25 年 6 月)
下佐野遺跡(発掘された日本列島 2013) (文化庁編 朝日新聞出版 25 年 6 月)
高岡ミニ人物史 92 富山県日本画壇 育ての親 櫻井鴻有 (横 効子 高岡の図書館 96 号 25 年 7 月)
高岡市立平米小学校創校 100 周年記念誌 鳳凰
(記念誌編集委員会編 平米小学校創校 100 周年記念事業協賛会刊 25 年 1 月)
GEIBUN 4 (平成 24 年度) 富山大学芸術文化学部卒業研究・制作 芸術文化学研究科修了研究・制作集
(富山大学芸術文化学部・制作 卒展委員会編集 富山大学出版会刊 25 年 3 月)
富山城、高岡城 レンズが撮らえた幕末日本の城 (来本雅之編著 山川出版社 25 年 4 月)
井波、高岡山町筋、高岡金屋町、越中八尾、五箇山相倉、五箇山菅沼、城端(日本の町並み 250)
(山と溪谷社 25 年 7 月)
北前船の近代史 海の豪商たちが遺したもの(交通ブックス 219) (中西 聡著 交通研究協会刊 25 年 4 月)
伏木港史(口絵解説) (太田久夫 富山教育 913 号 25 年 5 月)
全国高等学校総合文化祭大会記録集 第 36 回全国高総文祭とやま 2012
(第 36 回全国高等学校総合文化祭富山県実行委員会事務局編刊 25 年 2 月)
高岡市美術館所蔵品図録 2011 年度版(平成 23 年度) (高岡市美術館編刊 25 年 3 月)
夢追い漫画家60年 いつも明日見て…(100 年インタビュー)(藤子不二雄[Ⓐ]著 PHP 研究所刊 24 年 12 月)
戦争の傷あと(漫画家たちの戦争) (藤子・F・不二雄[ほか]著 金の星社刊 25 年 3 月)
棟方志功・越中ものがたり (飛鳥寛栗 桂書房刊 25 年 4 月)
富山の薬売り像・前田利長像・大伴家持像ほか 銅像の造り方を知ろう(竹中銅器・梶原製作所)
(日本の銅像完全名鑑 廣済堂出版 25 年 10 月)
高岡市万葉歴史館紀要 第 23 号 (高岡市万葉歴史館編刊 25 年 3 月)
越中万葉をたどる 60 首で知る大伴家持がみた、越の国(高岡市万葉歴史館論集 別冊 1) 坂本信幸(ほか) 執筆
(笠間書院刊 25 年 3 月)
聖武天皇の時代 高岡市万葉歴史館叢書 25 (高岡市万葉歴史館編刊 25 年 3 月)
万葉の森、逍遙 (篠島 満 [著]刊 25 年 4 月)
保科正之後見期の加賀藩について (本多俊彦 高岡法科大学紀要 24 号 25 年 3 月)
『郷土の文化 第 39 輯』(26 年)より抜粋

庄川に架かる中田橋

【むかしの中田往来】

北陸道は近世に入ってから、江戸に向かう街道として利用されていた。俱利伽羅峠を越えて小矢部川を渡り、木舟―戸出―中田―水戸田と結び、黒河―富山と通じていた。これは呉西平野を最短距離で結ぶ重要な道であった。この街道沿いに発達した中田は宿場町として栄えた。

加賀藩二代藩主前田利長が高岡城を築き、高岡回りの街道が整備されると、戸出―中田のルートは脇街道となったが、巡見上使の視察ルートとして大いに利用された。

【庄川と中田の舟渡し】

橋ができるまでは、平野部の川幅の広いところでは、徒歩または徒渉、川越人足による以外は舟渡しによる場合が多かった。

奈良時代の庄川は小矢部川の中流に注いでいたが、その主流は洪水のたびに野尻川、中村川、荒俣川、千保川へと次第に東へ遷り、寛文9年(1669)になるといまの中田―大門の線に落ち着いた。この頃、千保川の水量が大きく減少したので、千保川にあった舟渡場を中田川(庄川)へ移したいという願書が出された。届け出があってから5日後に承認され、以後、明治21年(1888)中田橋の架橋まで、約220年「中田の渡し」として賑わうこととなった。

【しおり塚】

「中田の渡し」は中田に所有権があり、厳格な渡船法も藩制で定められていた。下流の大門で船頭を営んでいた者たちは、渡しでの違反検挙の多さに不満を抱き、所有権を奪取せんと藩に抗議活動をするも拒絶された。ある日、下流から中田に大挙して押し寄せ暴動を起こそうとしたが、これを鎮圧しようとした中田の塩谷忠兵衛は暴徒に惨殺された。この騒動の犠牲者となった忠兵衛の霊を永久に祀るため築いたのが「志を里(しおり)」塚である。現在は鎮守の森公園に保存されている。

【明治期中田橋】

明治21年5月、中田町と北般若村との間に木橋が架設された。当時、県下で一番長い橋となり、「雄神橋」と呼ばれていた。その頃庄川には下流に大門橋があっただけで、砺波平野の庄川を挟んで直結する橋梁がなく、交通の面で不便であった。地元出身の島田孝之県会議長が架橋に尽力したといわれている。

中田の舟渡場の両詰には常夜灯が兩岸に設けられていたが、橋の架設により不用となり、これらを高岡市常国地区へ譲り受けることとなった。同

年8月、村から何名かの力持ちが選ばれ、揮一貫で担ぎ運んで、山王宮(現在の常国神社)に奉納された。常夜灯には、弘化2年(1845)と記銘されている。

明治33年3月に架け替えられたときに「中田橋」と改称された。明治41年8月にも架け替えられた。

【昭和期中田橋―念願の永久橋完成へ】

昭和14年(1939)6月、永久橋を目指して5カ年計画事業として工事が始まったが、太平洋戦争の影響で資材の供給が順調にゆかず、昭和21年、一部永久構造、他は木橋として計画変更の上架橋された。

以降、重要路線の一部として役割を果たしてきたが、交通量増大や風雪による橋の老朽化のため、昭和28年ごろから地元住民が強く陳情を重ね、永久橋への工事が再開された。昭和30年6月より本格的に工事が進められ、同年12月に竣工。翌年1月5日から人と小型車の通行が許可され、1月10日からはトラックの通行も許可された。3月25日に竣工式が行われた。『中田町報』には「中田橋竣工記念特集号」と題して竣工式と祝賀行事の内容、各界関係者からの祝辞等が詳細に記載されている。雨が降る中の式典ではあったが、渡し初めを觀ようと橋の兩岸に約5000人が押し寄せた。戸出―中田―高岡間を走るバスも運行が開始され、「陸の孤島」と呼ばれていた中田地区が一躍交通の要部となった。

【新中田橋】

中田橋の幅は5.5メートルと狭く、冬季には渋滞が発生するなど利用者にとって危険な状態であった。このため、自動車専用の新中田橋を現在の中田橋下流に平行して建設することになった。昭和48年に3年計画で着工したが、オイルショックによる資材費の値上げ等の理由で中断。昭和54年(1979)にようやく完成した。

現在の中田橋は、主要地方道富山・戸出・小矢部線上にあり、高岡市戸出大清水と上麻生地区を結ぶ。今日でも富山県西部における重要な橋の一つとなっている。

《参考資料》

「庄川 中田橋の今昔」「庄川と橋」

「中田町報」「中田町誌」

「北日本新聞」「読売新聞(富山読売)」ほか

(藤澤陽子 記)

||||| 調査相談の窓口から |||||

…… おたずねくださいQ&A (中央図書館) ……

本年3月、北陸新幹線が開通し、県外からも多くの方が高岡へお越しになられます。以前からありましたが、最近では他県からのレファレンスを受けることも多くなりました。「来市の際の事前調査」「先祖、ルーツ探し」などの問い合わせも増えています。今回は、それも含めた郷土関係の質問を取り上げます。

レファレンスの例

Q：高岡市の守山地区に一字姓が多いのはなぜか。また守山に3つの大きなお寺があるが、寺が建立された当時の村の戸数は何戸か。

A：姓・苗字・名前に関する資料、富山県内の雑学に関する資料など主に郷土の書架で探す。

結果、明確な理由は確認できなかったが、『児童学習発表会記録第11号』『高岡史話(続)』など「守山の一字姓」に関する記述のある資料で回答した。

また、3つの寺とは浄覚寺・超光寺・専久寺であり、それぞれ寛永年間(1624~1644)に守山に建立されたとの記述あり(『守山村誌 上』)。寛永年間の戸数は確認できなかったが、『たかおか 歴史との出会い』に元禄3年(1690)以降の戸数の記載があり、62戸と回答した。

Q：『伏木郷土史年譜』に書いてある「凱旋丸」について知りたい。

A：「明治33年 ウラジオストック「凱旋丸」での定期航路が開かれ・・・」また「明治34年伏木港から「凱旋丸」に乗り浦塩へ渡航した」の記載あり。

「海運」や「船舶」などで蔵書検索する。『三州船舶通覧』に凱旋丸の所有者・大家七平について記載。明治36年6月に凱旋丸は浦塩に航行の途中座礁とあるので、『北陸政論』『富山日報』などの新聞記事を調べる。また、『伏木郷土史年譜』の内容から、凱旋丸で渡航した下村房次郎の本を調べる。『自知下村房次郎君追懷録』の年譜に渡航についての記載あり。

なお、『三州船舶通覧』には6月座礁となっていたが、新聞記事によると4月28日に浦塩港付近で座礁している。

Q：高岡図書館が桜馬場にあった場所は現在のどこか。

A：質問者は図書館のホームページを見て質問されたとのことなので、『図書館要覧』の年表より高岡図書館の変遷を確認する。

また『高岡市史 下巻』に「明治43年7月8日 桜馬場の物産陳列所の一棟に」の記述あり。

物産陳列所は『続 古城の杜』『尚美永遠に』によれば「下関町・富山相互銀行高岡駅前支店辺り」(現在同地に銀行はない)。

『大日本職業別明細図之内富山県高岡市伏木町新湊町氷見町』『住宅明細図 昭和59年』なども参考にした。

Q：大正時代にあった「回生病院」について知りたい。高岡市民病院に合併されたいが。

A：『高岡市史 下巻』に回生病院の詳しい変遷あり。明治32年11月高岡市伝染病院(白銀後町で落成)→明治36年4月関野病院に改称→大正4年回生病院に改称→大正13年9月開発町に移転→大正14年5月開院。昭和30年8月に高岡市民病院に伝染病棟が完成するまで診療を続けていた。

その他、『北日本新聞』『高岡市民病院史』『たかおか 歴史との出会い』などに記載あり。コピーを提供した。

Q：平成6~7年(1994~95)のJR時刻表を見たい。砺波発の城端線があったらしく、そのダイヤを確認したい。

A：中央図書館には1981年からの時刻表を保存している。(欠号もあり)平成6年12月から7年12月号までの数冊分の該当ページをコピーで提供した。

(菅原 緑 記)

高岡ミニ人物史

モダニズム建築の旗手

よし だ てつ ろう
吉 田 鉄 郎
(1894 ~ 1956)



北陸新幹線で東京観光した方は、東京駅丸の内南口にそびえ立つ、地上 38 階、全面カーテンウォールの超高層ビルをご覧になったでしょうか。平成 25 年 3 月に旧・東京中央郵便局跡地に開業した、日本郵便の JP タワーである。その地上 6 階までの低層部分、白タイルの外壁に黒サッシ窓が印象的な商業施設 KITTE は、旧郵便局舎を一部復元・保存したものである。余分な装飾のないきわめて端正なこの旧局舎は、日本におけるモダニズム建築を開花させた傑作と評されている。昭和 6 年 (1931) 竣工、富山県福野町出身の吉田鉄郎の設計である。

鉄郎は明治 27 年 (1894)、福野町五島家の三男として生まれた。五島家は代々薬種商を営んでいたが、福野郵便局が設置された後、父・寛平と長兄・達二が親子二代で郵便局長を務めた。母・ゑくは石動郵便局長の長女であり、郵政事業とゆかりのある家系であったといえる。鉄郎は旧制高岡中学校・第四高等学校を経て、東京帝国大学建築学科に入学する。大正 8 年 (1919) の卒業後は通信省に入省し、営繕課に勤務した。当時、通信省の業務施設のほとんどは営繕課の技師により設計されており、鉄郎もその一人として数多くの建築に携わった。それらは後に「通信建築」「通信モダニズム」と称され、近代建築に多大な影響を残した。中でも東京中央郵便局は、同時期に 1 年間にわたる欧米出張 (スイス・スウェーデン・ドイツなど) で目にした機能主義・合理主義建築と日本建築の融合を打ち出した最初の例といわれ、「モダンでありながらきわめて純日本的」とドイツの巨匠建築家ブルーノ・タウトが称賛したとされている。

通信省時代は京都中央電話局 (1926・京都。現・新風館)、検見川無線送信所 (同・千葉)、別府市公会堂 (1928・大分。現・別府市中央

公民館。別府市指定文化財)、大阪中央郵便局 (1939・大阪) などを手がけた。また本業とは別に住宅建築も手がけており、東岩瀬の海運業・馬場家の牛込本邸 (1928・東京。現・最高裁判所長官公邸。重要文化財)、熱海別邸 (1940・静岡) などを手がけた。これらの作品は現存するものは少なく、その歴史的・文化的価値から保存再生の活動が取り組まれている。

さて、鉄郎は通信省入省直前に、富山県戸出町出身の吉田芳枝と結婚し、戸出物産の吉田家の養子となっている。通信省を退官した昭和 19 年 (1944) 3 月頃には一時的に帰郷し、単身で吉田家に身を寄せている。この時期に戸出町から多くの手紙を関係者へ発信しているが、いずれも工事や設計変更に関する詳細な指示であり、富山にしながら高等海員養成所 (1943・大阪)、男子灯台寮・女子灯台寮 (1943・神奈川) などの美しい木造建築を完成させた。鉄郎の建築に対する並々ならぬ執念が伺い知れる。時おり、雪国の静かで清浄なさまや、春の砺波平野の風景をドイツの 5 月にたとえ、「まったくのびのびした気持ちになる」と、郷里の美しさについても描き表している。

昭和 24 年 (1949) 頃病に倒れるも、北陸銀行の新潟・長野・福井片町の三支店を手がけ、ドイツ語で書き下した三部作『日本の建築』『日本の住宅』『日本の庭園』を刊行し、日本建築を広く世界に知らしめた。

亡くなる前日には、「日本中に平凡な建物を沢山建てたよ」と芳枝夫人に語ったという。この慎ましくも偉大な言葉を残し、一途に建築を追い求めたその生涯を閉じたのである。享年 62 歳。

《参考資料》

『建築家吉田鉄郎とその周辺』

『建築家・吉田鉄郎の手紙』

『越中人譚』

(押川千陽 記)

「高岡の図書館」 51～100 号索引

凡 例

- 1、巻頭言、郷土関連依頼原稿の項目は、執筆者、タイトル、号数の順に記載した。
- 2、高岡ミニ人物史は、人物名、号数、執筆者（図書館員）の順に、高岡の歴史さんぽの項目は、タイトル、号数、執筆者（図書館員）の順に記載した。（敬称略）

巻 頭 言

- ・大畑 年 生涯学習は今 (51)
- ・多留 淳文 医学者としての高峰譲吉 (52)
- ・奥田 治璽 医師に勝る文学者の観察眼 (53)
- ・鷺本 義昌 子どもと大人をつなぎ、 (54)
そして世界をつなぐ図書館
- ・竹内 愼 「読書保険」のこと (55)
- ・吉村 和夫 沢田清兵衛・斉藤庄兵衛と (56)
庄川改修「庄川流域に美田」
が生まれる
- ・太田 久夫 中央図書館開館90年・伏木 (57)
図書館開館 80 年を迎えて
- ・多田 一則 地域住民のための図書館を (58)
めざして
- ・小沢 昭巳 授業 (59)
- ・山口 松蔵 川の流れのように (60)
- ・米澤 保 高岡のお晴見祭り (61)
- ・正橋 剛二 越中蘭方医と高岡町 (62)
ー長崎・佐渡両家文書に接してー
- ・保科 齊彦 歴史史料としての絵図 (63)
- ・高成 玲子 ニューオリンズ万博で出会 (64)
った男たちーマタス博士が語る
ハーンと高峰譲吉ー
- ・石岡 敬夫 エスペーロ (65)
- ・奥田 淳璽 父の死と母の死 (66)
- ・須山 盛彰 「同時代史」のすすめ (67)
- ・田中 喜男 富山県のライブラリアン (68)
- ・太田 久夫 図書館界のコンピュータ化 (69)
- ・大久間喜一郎 古叢書の価値 (70)
- ・篠島 満 「高岡湯話」の現代語訳余話 (71)
- ・小島 定俊 「子どもの読書活動推進」を (72)
めぐる動き
- ・佐藤 孝志 多くの皆様のご来館を願って (73)
- ・太田 久夫 新装なった中央図書館 (74)
- ・橘 慶一郎 読書を友として (75)
ー英国・化学・都市ー
- ・野村 乙美 物事を処していく上での (76)
人生の宝物

- ・大石 茂 私の読書体験 (77)
- ・米田 憲三 雪の町で手にした幼少期の (78)
一冊
- ・谷口 悦子 本に心癒されて (79)
- ・大西 秀之 人をつくる図書館 (80)
- ・篠島 満 「高岡詩話」の現代語訳余話 (81)
- ・竹塙 二郎 図書館は進化する (82)
- ・太田 久夫 もっと図書館の活用を (83)
- ・大石 茂 長崎の文化遺産を継承する (84)
人々
- ・大西 紀夫 高岡の文人たち (85)
- ・参納 哲郎 知りたいことに応える図書館 (86)
- ・立野 幸雄 老いて本を愉しむ (87)
- ・氷見 哲正 興味は読書の母である (88)
- ・塚原 剛 めざせ！図書館の達人 (89)
- ・高橋 正樹 私の「図書館」 (90)
- ・晒谷 和子 暮らしを彩る年中行事と (91)
古文書
- ・野村 剛 本の不思議 (92)
- ・赤川 雅和 東日本大震災にこころ寄せる (93)
- ・伊藤 眞 トルストイ民話集「イワン (94)
のばか」
- ・村上 隆 五感で思い出す読書 (95)
- ・上野 慶夫 幸せな現代人、原点は図書館 (96)
- ・大西 紀夫 有磯海と芭蕉 (97)
- ・河田 悦子 風土・憧れは文化の根っこー (98)
- ・前田 一郎 現代のメディアとこれから (99)
の図書館
- ・氷見 哲正 子どもの読書について (100)

郷土関連依頼原稿

- ・晒谷 和子 前田家三代と高岡 I ～XXI
(59～80、但し 73号を除く)
- ・高岡 徹 「高岡御城景台之絵図」に (72)
ついて
- ・吉田千鶴子 おはなしの“心”を届ける (81)
図書館ボランティアとして
- ・定塚 武敏 学校・図書館・生涯学習 (82)
- ・蒲田 幸雄 400 年目の「まち歩き」 (85)
- ・大石 茂 開町四百年と高岡御車山祭 (86)
- ・大石 茂 文化財建造物の四百年の歩み (87)
- ・織田 浩之 中央図書館所蔵の古文書を (88)
活用して
- ・仁ヶ竹亮介 高岡開町400年を振り返って (89)
- ・太田 久夫 高岡市立中央図書館100年の (90)
あゆみ

- ・立野 幸雄 ミステリアスな高岡の文学 (91)
- ・遠藤 幸一 大震災と文化施設 (92)
- ・坂本 信幸 「芸亭」から電子図書館へ (93)
- ・飛鳥 寛栗 小規模図書館の大きな使命 (94)
- ・晒谷 和子 町名は歴史をひもとくパス
ワード I・II (95～96)
- ・古岡 英明 藤井能三と米単作国越中 (97)
- ・明神 博幸 幕末の加賀藩と越中国 (98)
～異国船襲来の危機と銃卒の育成
- ・志甫 和彦 山町筋の天神様・ひなまつり (99)
について
- ・太田 久夫 祝「高岡の図書館」100号 (100)
発行

高岡ミニ人物史 (五十音順)

- | | 号数 |
|----------|------------|
| ・在田 宗貫 | (92) 佐藤里美 |
| ・五十嵐篤好 | (78) 田中美和子 |
| ・岩倉 規夫 | (65) 太田久夫 |
| ・上埜 安太郎 | (80) 谷内正雄 |
| ・内島 北朗 | (53) 山崎なぎさ |
| ・老子 次右衛門 | (63) 山崎なぎさ |
| ・大井 冷光 | (71) 加藤葉子 |
| ・大角 勲 | (90) 藤澤陽子 |
| ・大窪 マスミ | (66) 藤 陽子 |
| ・大澤 光民 | (87) 藤澤陽子 |
| ・大野 為次 | (93) 押川千陽 |
| ・大橋 八郎 | (79) 坂本恭章 |
| ・岡野 他家夫 | (61) 太田久夫 |
| ・沖 外夫 | (77) 谷内正雄 |
| ・御旅屋太作 | (60) 藤 陽子 |
| ・金田 恒二 | (86) 菅原 緑 |
| ・金森 映井智 | (81) 坂本恭章 |
| ・加茂 善治 | (95) 菅原 緑 |
| ・彼谷 芳水 | (67) 上坂美和子 |
| ・河合 平三 | (99) 藤澤陽子 |
| ・孝子 六兵衛 | (76) 田中美和子 |
| ・米 治一 | (82) 渡辺和子 |
| ・櫻井 鴻有 | (96) 横 効子 |
| ・笹原 文次 | (58) 山崎なぎさ |
| ・澤田 はぎ女 | (84) 田中美和子 |
| ・篠田 茂三郎 | (85) 吉田公陽 |
| ・関 守一 | (98) 押川千陽 |
| ・闌 郁 | (55) 横 効子 |
| ・高瀬 想風 | (91) 野口充子 |
| ・竹平 政太郎 | (74) 原田絹子 |
| ・鳥山 敬二郎 | (54) 藤 陽子 |
| ・長谷川 徳之 | (69) 高井靖夫 |
| ・畑 正吉 | (94) 藤澤陽子 |

- | | |
|---------|------------|
| ・般若 侑弘 | (57) 太田久夫 |
| ・飛見 丈繁 | (59) 菅原 緑 |
| ・藤平 正夫 | (97) 江尻紀子 |
| ・二上 兵治 | (52) 炭谷一義 |
| ・堀川 敬周 | (83) 根津明義 |
| ・堀田 善衛 | (70) 中村玉美 |
| ・前田 治脩 | (51) 横 効子 |
| ・南 桂子 | (89) 山口麻里子 |
| ・三村 石邦 | (72) 高井靖夫 |
| ・宮崎 久 | (64) 太田久夫 |
| ・村井 盈人 | (88) 佐藤里美 |
| ・山本 中郎 | (56) 山崎なぎさ |
| ・吉田 琴堂 | (68) 原田絹子 |
| ・吉田 久兵衛 | (75) 森田英則 |
| ・吉田 鉄郎 | (100) 押川千陽 |

高岡の歴史さんぽ

- | | 号数 |
|-----------------------|------------|
| ・高岡で初めて飛行機が飛んだ | (54) 山崎なぎさ |
| ・高岡宝くじ夢物語 | (55) 〃 |
| ・人力車からタクシーへ | (56) 〃 |
| ・高商、初めて甲子園の土を踏む | (57) 〃 |
| ・美人コンテストミス高岡の変遷 | (58) 〃 |
| ・御旅屋七本杉について | (59) 〃 |
| ・渋谿埼から | (60) 横 効子 |
| ・与謝野夫妻古城公園散歩 | (62) 太田久夫 |
| ・高岡の大火の歴史 | (64) 山崎なぎさ |
| ・明治・大正・昭和初期の人々の娯楽 | (65) 〃 |
| ・高岡に汽車走る | (66) 〃 |
| ・弓の清水について | (68) 上坂美和子 |
| ・上使街道を訪ねて | (71) 森田英則 |
| ・優れた建造物群と彫刻のある街 | (72) 太田久夫 |
| ・中田地区の用水の歩み | (78) 村本雅美 |
| ・毘沙門杉のことなど | (81) 佐藤里美 |
| ・昔をしのび実際に歩いた北陸道 | (82) 原田絹子 |
| ・戸出野—1617年11月— | (84) 佐藤里美 |
| ・庄川と中田—水害との戦い— | (85) 村本雅美 |
| ・戸出野開き以前のことなど | (91) 佐藤里美 |
| ・みなとの町 伏木 | (93) 横 効子 |
| ・高岡の「源平ゆかりの地と
伝承①」 | (95) 佐藤里美 |
| ・「戸出御旅屋の門」 | (97) 〃 |
| ・「木舟城跡」 | (99) 江尻紀子 |
| ・庄川に架かる中田橋 | (100) 藤澤陽子 |

※バックナンバーについては、中央図書館へ
お問い合わせ下さい。

お知らせ

行事予定 (変更になる場合があります)

中央図書館

- えほんのじかん 毎週月～金曜日
(祝日、第4月曜日を除く)
午前11時～15分程度
- えほんの広場 毎週土、日曜日、祝日
午前11時～30分程度
- おはなし会 毎月第1土曜日
午後2時～2時30分
- 図書館ボランティア
「おはなし会」 毎月第2土曜日
午後2時～2時30分
- おはなしポケット 毎月第3土曜日
午後1時30分～2時
- どんぐりコロコロ 毎月第4土曜日
午後2時～2時30分
- 高岡婦人読書会 毎月第3水曜日 午後2時～
「古文書を学ぶ会」 8月1日(土) 10月10日(土)
午前10時～11時30分

古文書で学ぶ高岡の歴史

高岡市史料集解説講座

テーマ 「加賀藩主の鷹狩」

— 高岡市史料集 第26集より —

9月12日(土) 午前10時から11時30分まで、
高岡市生涯学習センター5階研修室501において
講師の山崎明代さん(『高岡市史料集』解説講師)
に古文書の解説をしていただきます。
受講料は無料です。
詳しくは中央図書館までお問い合わせください。

伏木図書館

- こども読み聞かせ会 毎週土曜日
午前11時～
- 夏休みマジックショー 8月6日(木) 午後2時～
- 古典の会 毎月第2日曜日
午前10時～
- 読書会 会場：伏木コミュニティセンター
毎月第4土曜日(8月なし)
午後1時30分～
会場：伏木コミュニティセンター

戸出図書館

- こども読み聞かせ会 毎週土曜日
午前11時～
- おはなし会 8月26日(木) 午後1時30分
会場：戸出児童センター

中田図書館

- 子ども読み聞かせ会 毎週土曜日
午前10時30分～
- 夏休み子ども読書カード
8月30日(日)まで

福岡図書館

- おはなしの部屋(読み聞かせ等) 毎週土曜日
午前11時～
- こどものブックマラソン《チャレンジ2015》
8月31日(月)まで

※ 中央図書館は毎月第4月曜日のみ休館します。(年末年始 12月29日～1月3日休館)

伏木・戸出・中田・福岡図書館利用案内

8月							9月							10月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
						1			①	2	3	4	5					1	2	3
2	③	④	5	6	7	8	6	⑦	⑧	9	10	11	12	4	⑤	⑥	7	8	9	10
9	⑩	⑪	12	13	14	15	13	⑭	⑮	16	17	18	19	11	⑫	⑬	⑭	15	16	17
⑯	17	⑱	19	20	21	22	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	26	⑱	19	㉒	21	22	23	24
23	㉔	㉕	26	27	28	29	27	㉘	㉙	30				25	㉖	㉗	28	19	30	31
30	㉚																			
11月							12月													
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土							
1	②	③	④	5	6	7			①	2	3	4	5							
8	⑨	⑩	11	12	13	14	6	⑦	⑧	9	10	11	12							
⑮	16	⑰	18	19	20	21	13	⑭	⑮	16	17	18	19							
22	㉓	㉔	㉕	26	27	28	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	25	26							
29	㉚						27	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜								

○印は伏木・戸出・中田図書館の休館日

□印は福岡図書館の休館日

高岡市立中央図書館	〒933-0023 末広町1-7	TEL (0766) 20-1818	FAX (0766) 20-1819
高岡市立伏木図書館	〒933-0104 伏木湊町13-1	TEL (0766) 44-0073	FAX (0766) 44-0073
高岡市立戸出図書館	〒939-1104 戸出町3-19-29	TEL (0766) 63-1254	FAX (0766) 63-1254
高岡市立中田図書館	〒939-1272 下麻生1108	TEL (0766) 36-0054	FAX (0766) 36-0054
高岡市立福岡図書館	〒939-0132 福岡町大滝44	TEL (0766) 64-1034	FAX (0766) 64-1038